

いえしまDays

7月24日(月) ~ 7月27日(木)

IN 兵庫県立いえしま自然体験センター

	午前	午後	夜
1日目	施設向け出発	オリエンテーション <島での過ごし方>	振り返り
2日目	オリエンテーション <魚の獲り方について>	自給自足生活	振り返り
3日目	自給自足生活	自給自足生活 いかだレース	振り返り
4日目	清掃	施設を出発・解散	

一日目： 島へ渡り、自分達でやりたい事を決め、食べるために魚を釣り、貝を集め、3泊4日を過ごします。今年の島暮らしはどのような暮らしを伺えるでしょうか？朝早くから電車やバスを乗り継ぎ、姫路港へ向かいました。姫路港にてリーダー紹介やグループ分け、自己紹介の時間を設けました。この時既に道中で仲良くなっているメンバーもおられ、さほど緊張もなく和気あいあいと進めることが出来ました。乗船し、今回の目的地「いえしま」へ向かいました。船が出航すると、皆のテンションも上がり、島での話もされていました。島に到着すると船着場から宿泊する施設までは少し歩かなければいけません。暑さと空腹がみんなを追い詰めましたが、泣き言言わず、皆頑張って向かいました。到着後のお弁当はとても美味しそうに食べておられました。昼食後、施設からのオリエンテーションがあり、施設のルールなどを確認しました。皆島暮らしを楽しむため真剣に聞いておられました。話が終わると、海遊びへ向かいました。水着に着替え、準備体操を済ませると一斉に海へ走り出しました。火照った体に海の冷たさが気持ちよく、ただ浮かんで癒されている方もおられました。浮島から飛び込む方もおられ、存分に楽しまれていました。海遊びの後は夕飯のおかずを見つけない磯浜へ向かいました。ここでは「亀の手」という貝が沢山採れ、それを味噌汁の中に入れます。皆岩場の間にいる貝を必死に集めておられました。この後は夕飯作りです。今回は「ご飯の炊き方」、「味噌汁の作り方」を学んでいただきました。そして、肝心の「火の起こし方」も学んでいただきました。初めての試みの方が多く、なかなか火がつかず苦戦されていました。それでも一生懸命考え、息を吹きかけ、火を大きくするよう頑張っておられました。時間はかかりましたが、どのグループも美味しくご飯を作ることが出来ました。明日からは自分達で考え、動いてもらう一日が始まります。

二日目： 朝から元気な声が聞こえてきました。起床後すぐに野外炊事の格好や持ち物を素早く準備されていました。朝食はカートンドッグです。食材のキャベツを切り、ソーセージを挟み、アルミホイルで包んで、牛乳パックに入れて焼きます。経験した事があるメンバーもおられ、その方々が率先して皆に教えながら、調理を進めていました。朝食後は皆が楽しみにされていた、「魚獲り」です。方法は『釣り』と『モリ』です。それぞれのやり方と注意点を伝え、準備に取りかかりました。釣りは経験者も多く、やり方を知っているメンバーが各グループにおられたので、やり方を教えている様子が伺えました。モリはほとんどのメンバーが初めてなので、試行錯誤されながら海を漂っておられました。海が穏やかであったのと、昼前だったことが重なり、収穫は上手いかず、小魚一匹という結果でした。昼食は自分達で残っている食材から考えたメニューを調理しました。午後からも引き続き魚獲りに向かいました。魚も現れ始め、チャンスです！餌を撒くと魚も寄ってきたので、今回は収穫が出来ました。モリ組は泳いでいる魚ではなく、岩場に隠れている魚に狙いを定めました。まだやり始めたところなので収穫はありませんでしたが、明日に期待です。夕飯から皆に疲れが見え始め、些細な事に苛立ちを感じたり、やる気を失ったり、心が弱くなっていました。結果、夕飯も完成が遅くなりました。夕飯後に少し話をし、就寝前に一日の振り返りと明日のスケジュールを立てていただきました。



三日目： 3日目は時計を見ず、自分達の感覚で一日を過ごす日です。起床時間もグループごとに異なり、朝ゆっくりされるグループや、朝一から釣りに出掛けるグループがありました。朝食後は各々グループごとに時間を過ごしました。昼食用の食材を獲りに行ったり、遊んだり、話し合ったりしました。昼食後はみんなお待ちかねの「いかだレース」です。職員の方から結び方を教えていただき、いかだ作成に取り掛かりました。初めは結び方が難しく、なかなか浮きと竹竿を固定出来ませんでした。徐々に慣れ始め、手早く結んでいきました。自然と協力している姿も見られました。いかだが完成し、海へ浮かべ、レーススタートです。今日はまだアクティブな動きをしていなかったため、笑顔いっぱい楽しそうにされていました。途中深いところを進む際は怖いという声も聞こえましたが、皆一生懸命に漕いでおられました。ゴールの結果で、「お肉食材」を獲得する事が出来、大いに喜んでおられました。夕食前に遊泳を楽しむグループや、釣りを楽しむグループがありました。夕飯は獲得した食材を使って、今まで以上に豪華な料理を作りました。皆の表情もどこか穏やかで、今まで必死だった調理にも余裕が伺えました。入浴後、振り返りと帰る準備を行いました。最後の夜なので、少し遅くまで話は盛り上がりました。



四日目： 朝起きると、ひたすら片付けの一日です。食器を借りる前より綺麗に磨き、寝泊まりした部屋を清掃し、かまどは私達が使った形跡が残らないよう何度も掃除を行いました。朝食を挟み、再び清掃に集中した結果、昼食までに時間に余裕が生まれたので、各グループで鬼ごっこやけいどろをし、元気に走り回っておられました。昼食は最初で最後の食堂を利用しました。作ってもらったご飯に皆喜び、嬉しそうに楽しく時間を過ごしました。食後、帰る準備をし、職員さんに感謝を伝え、施設を出発しました。再び峠を越えて船着場へ向かうのですが、初日とは違い、体は日に焼け遅しくなり、率先して声掛けも聞こえていました。船に乗り、姫路港に到着し、集合場所ごとに解散へと向かいました。帰りは皆疲れているかと思いましたが、解散時まで楽しく話をされていました。



<キャンプ総括>

昨年より一泊増やして開催しました。その結果、島暮らしの説明も十分に出来、余裕のある時間を過ごすことが出来ました。釣りや銚子で魚を獲りに行く機会も増え、皆から大変意欲的な様子が伺えました。しかし、今年に限って収穫量が大変厳しく、故に徐々にメンバーの意欲も下がっていく傾向を感じられました。ここは来年改善をし、意欲を落とさない工夫を行って参ります。島暮らしは『食』に軸をおき、どう生活するかを考えます。海で遊びたい気持ちもあるでしょうし、貝殻などを拾ってお土産にしたい気持ちもあると思います。それらを実現するために「どうしたら時間をつくれるか」を必死に考え、動かなければいけません。それを怠ると、食事が終わると、すぐに次の食事がやってきて、食べるだけのキャンプとなります。実際に日が経つごとに一人一人の動きが機敏になっていきました。目的の為に、今自分が出来ることを全力で取り組む事を忘れず、これからも頑張ってください。（竹中 哲郎）